

Dream専用除菌液 Dream21

安全・そして高性能

製品概要

Dream専用除菌液『Dream21』は、医療機関や介護施設等での高度な衛生管理基準に対応すべく開発された次世代型高性能除菌液です。

抗菌性能は、日本食品分析センターを始めとする検査機関で証明されています。
また、ノンアルコールのため刺激が少なく、オレンジエッセンスを添加し心地良い微香性の除菌液に仕上げました。

Dream専用除菌液『Dream21』は機械の運転時に、機械内部の洗浄にも効果があります。

●成分

・水

・塩化ベンザルコニウム

抗菌作用のある界面活性剤のひとつで、医療・食品衛生分野にて広く使用されています。
新型コロナウイルスへの有効性も確認されております。

・ラウリルアミノジプロピオン酸Na

抗菌補助・液剤の安定性・洗浄効果があり、低刺激のため乳幼児用シャンプーなどにも配合されています。

・プロピレングリコール

消臭効果があり、食品添加物、化粧品、育毛剤等に使用されています。

・アミノ酸混合液

植物由来で、肌にやさしい低刺激成分です。

・オレンジエッセンス

微香性で、薬剤の消臭効果があります。

●安全性

皮膚一次刺激試験 陰性 日本食品分析センター(NA66080244)

急性経口群生試験(LD50) 6,000mg/kg以上(NA69010007)

●抗菌性能

- | | | | | |
|-----------------------|-------|----------|-----------|------------|
| ①セレウス菌 | | [10倍希釈] | 15分後:検出せず | 日本食品分析センター |
| ②大腸菌 | | [100倍希釈] | 15分後:検出せず | 日本食品分析センター |
| ③緑膿菌 | | [10倍希釈] | 15分後:検出せず | 日本食品分析センター |
| ④MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌) | .. | [100倍希釈] | 15分後:検出せず | 日本食品分析センター |

●使用方法(保証期間:開封後6ヶ月 冷暗所保管)

・給水タンク 水1ℓに計量カップで30mlの除菌液を入れ、攪拌してください。

※注意

- ・おしぼり・タオル ディスペンサーDreamには必ず専用除菌液をご使用ください。
- ・地下水(井戸水)は故障の原因となりますのでご使用にならないでください。

2021 年 04 月 21 日

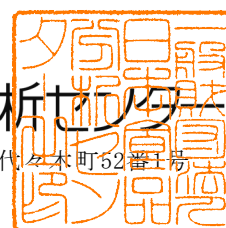
試 験 報 告 書

依 頼 者 株式会社 G I C J a p a n

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 Dream21

表 題 殺菌効果試験

2021 年 03 月 09 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 G I C J a p a n

2 検 体

Dream21

3 試験概要

検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈する中和条件により, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時	1分後	5分後	15分後
セレウス菌 (芽胞)	検 体	—	1.1×10^6	1.3×10^6	1.2×10^6
	対 照	9.7×10^5	—	—	7.4×10^5
大腸菌	検 体	—	700	<100	<100
	対 照	7.1×10^5	—	—	8.2×10^5
緑膿菌	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	8.9×10^5	—	—	9.0×10^5
MRSA	検 体	—	<100	<100	<100
	対 照	8.0×10^5	—	—	9.8×10^5

<10及び<100 : 検出せず

保存温度 : 室温

対照 : リン酸緩衝液

表-2 試験条件

	試験菌	① <i>Bacillus cereus</i> IFO 13494(セレウス菌) ② <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972(大腸菌) ③ <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 13275(緑膿菌) ④ <i>Staphylococcus aureus</i> IID 1677 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌：MRSA)
試験菌液	試験菌①	前培養：普通寒天培地[栄研化学株式会社]，35℃±1℃，7～10日間 加熱条件：70℃±1℃，20分間 菌液調製溶液：精製水 菌数(芽胞)：10 ⁷ ～10 ⁸ /mL
	試験菌②及び③	前培養：普通寒天培地，35℃±1℃，18～24時間 菌液調製溶液：精製水 菌数：10 ⁷ ～10 ⁸ /mL
	試験菌④	前培養：普通寒天培地，35℃±1℃，18～24時間 菌液調製溶液：生理食塩水 菌数：10 ⁷ ～10 ⁸ /mL
試験液	検体10 mLに試験菌液0.1 mLを接種	
保存条件	1分，5分，15分(室温)	
中和条件	試験菌①及び③：SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈 試験菌②及び④：SCDLP培地で100倍希釈	
対照	りん酸緩衝液	
生菌数測定	SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混釈平板培養法	35℃±1℃， 2日間

以 上